

# 芦原小学校だより



平成23年12月22日  
戸田市立芦原小学校  
TEL 420-2226  
No.10 児童数491人 男子247人 女子244人

## 「絆」の年に学ぶこと

校長 深澤 孝忠

漢字一文字で今年の世相を表す今年の漢字が「絆」に決まりました。これまでで最も応募の多かった中から選ばれたそうです。

いよいよ冬休みに入ります。今年1年をご家族で振り返り、子どもたちの頑張りや伸びは大いに認め、頑張るべきところはどこかをはっきりさせて、新しい年を迎えてほしいと思います。

さて、今年は3月に東日本大震災が発生、さらに7月には新潟・福島豪雨、台風等による被害など自然の威力を思い知るとともに、尊い命の大切さや人との関わりについて多くのことに気づかされる1年となりました。私自身、前任校で震災後に計画停電のため、午後10時まで真っ暗で寒い職員室に待機したり、信号機が停まったままの交差点で下校指導をしたり、通勤時にはガソリンを求め、バイパスで渋滞をしている車列を見て「この国はどうなるのだろうか」ととても不安になった記憶が蘇ります。

この1年、私たちは、生きていること、生かされているということに感謝することに気づきました。社会では、自己中心的な考え方や行動から適切な人間関係を築けない子どもや大人、いじめや保護者からの虐待により被害者になる子どもが多く、連日のように事件として報道されています。自他の命の尊さに気づき、大切にすることを育てていくことが「絆」の年に学ぶことではないでしょうか。

自分や他人の命を大切にすることを育むためには、「荒廃した被災地」を「実り豊かな土地」に復興していくのと同じように「心の荒廃」を「豊かな心」へ育成していくことが必要です。

そのためには学校・家庭・地域の連携により、さらにそれらの教育力を結集して命の大切さを教え導いていくことが重要です。

学校だより本号は、被災地を訪れた土肥PTA会長から「今、思うこと～震災から9か月、被災地を訪れて～」のメッセージを裏面に掲載いたしました。ニュースや新聞報道でだんだん取り上げられ方が少なくなり、我々の意識も風化されていきそうな中で、被災地の現実を目の当たりにされ、感じられた心からのメッセージです。ご家族で読み合い、自他の命の大切さについて話し合っていたきたいと思います。

今年の最終号としては、テーマが重くなりましたが、本号で取り上げないわけにはいかないと考えました。ぜひ、来年は保護者、地域の皆様とともに希望に満ちた素晴らしい1年としていきたいと思ひます。

どうぞよいお年をお迎えください。

### はじめの会以降の日程

はじめの会以降の日程です。早めに規則正しい生活のリズムを取り戻しましょう。

1月10日(火) はじめの会 給食なし 短縮40分授業4時間  
一斉下校(4校時) ※12:00頃下校  
戸田市教育フェスティバル(保護者参加可)



11日(水) 給食開始 書き初め大会(3~6年) 委員会活動  
12日(木) 発育測定(5・6年)  
13日(金) 発育測定(3・4年)  
16日(月) 発育測定(1・2年)



### 戸田市教育フェスティバル

「戸田市教育フェスティバル」が、次の日程で開催されます。保護者の皆様も参加できます。戸田市の教育を知るよい機会ですので、お誘い合わせの上ご参加ください。なお、申込は不要です。

日時 平成24年1月10日(火) 14:00~16:30  
受付: 13:30から

会場 戸田市文化会館 大ホール  
内容 ・演奏(笹目小金管バンド、新曾中吹奏楽部)  
・講演(「言語活動を支える三種の学力」)  
講師 筑波大学 教授 甲斐 雄一郎氏

### 子ども達の安全確保について

懇談会時に、「冬休みの生活について」のお手紙でお知らせしましたが、次の点について、ご家庭でもご注意をお願いします。

- 1 人通りの少ないところや危険な場所へは行かないようにさせるとともに、暗くなる前に帰宅する。
- 2 不審者につきまといられる場合は、防犯ブザーを使用したり、「助けて」と大きな声を出したりして、「子ども110番の家」や近くの家・商店へ助けを求める。また、不審な人物や車には、絶対に近寄らない。
- 3 心配な事案があったら、まず、「警察へ通報」する。通報は、匿名情報でも受け付け可能です。



### 反射材(タックルバンド)の使用について

過日、「反射材(タックルバンド)」を全児童に配付しました。これは、冬季休業中の交通事故防止のために身に付ける物です。次の諸注意を守りご活用ください。

- 1 放課後など夜間外出する際に、使用してください。
- 2 手や足など動きのあるところに付けてください。
- 3 反射材を使って、他の人をたたくなど、危険な行為をしないでください。
- 4 反射材は、交通事故から児童を守るための用具なので、その他の用途で使用しないでください。

### ◎ 1月の諸経費引き落としについて よろしくお祈いします

引き落とし日 1月 4日(水)  
金額 3,700円(1月分給食費)



### ◆ 1月の行事予定等 ◆

日	曜	学校行事等
1	日	元日
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	
9	月	成人の日
10	火	はじめの会 短縮40分授業 一斉下校(4校時) 市教育フェスティバル
11	水	読書タイム 給食開始 書き初め大会(3~6年)委員会活動
12	木	発育測定(56年) 校内研修
13	金	スキルタイム 発育測定(34年)
14	土	県児童・生徒美術展(埼玉会館)
15	日	県児童・生徒美術展(埼玉会館)
16	月	発育測定(12年)
17	火	朝会(体育) 教育に関する3つの達成目標効果の検証
18	水	読書タイム クラブ活動
19	木	校内研修 新曾地区合同学校保健委員会(本校)
20	金	スキルタイム 教育相談日
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	朝会(音楽)
25	水	読書タイム クラブ活動
26	木	校内研修
27	金	スキルタイム
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	朝会(学校)

### ○ 2月の主な予定

- 1日(水) ~ 3日(金) 書き初め展
- 3日(金) 研究発表会
- 8日(水) 縦割り弁当 クラブ活動公開(3~6年)
- 10日(金) 新入学児童保護者説明会
- 11日(土) 建国記念の日
- 14日(火) 教育相談日
- 24日(金) 授業参観・懇談会(4・5年)
- 27日(月) 短縮日課6時間 縦割りお別れ会
- 28日(火) 授業参観・懇談会(1・2・3年)
- 29日(水) 委員会活動

## 今、思うこと

～震災から9か月、被災地を訪れて～

PTA 会長 土肥 美奈子

「午前中に卒業式を終え、体育館の後片付けをしている時、急に大きな揺れを感じ、同時にガシャンガシャンとガラスの割れる音がしました。何が起きたのかわからず校庭に出ると、校庭は避難してきた人ですぐにいっぱいになりました。テレビもつかないの状態で状況がわからないまま、避難の人の対応に追われている時に聞いたゴーゴーという音は、今でも耳にやきついています。今思うと津波の音だったようです。夜になって少し落ち着いた時、インターネットで初めて被害の大きさを知り、外に出てみたら学校より低い場所は火事で空が真っ赤でした。」

11月4日、戸田市PTA連合会で集めた義援金を届けるため、宮城県の石巻市を訪れました。

前文はその時に訪問した中学校の教頭先生に伺ったお話です。その中学校は高台にあり津波の被害こそありませんでしたが、割れたガラスはまだテーブルでとめているところもあり、最上階は被害の大きかった小学校が間借りしている状態……。避難していた人がそれぞれの住まいに戻り、校庭と体育館がすべて使えるようになったのは10月の事だったそうです。

あの震災から9か月……。テレビで見たあの時の津波の光景は今でも目にやきついています。

被災地を訪れて、何も無い広い空地のようになった町の様子に胸が痛みました。そこは店や家がたくさん並んでいた場所だったそうですが、今では何もなくなっているのです。

何軒か撤去されていない家が残っていました。どの家も1階だけは壁や窓がなく、津波の跡がはっきりわかりました。

瓦礫こそ片付けられていましたが、集められた瓦礫は廃棄する場所が無く所々に山積みされている状態でした。

被害の大きかった3校の小・中学校に案内していただきました。校内に残った泥だらけの机やランドセル・賞状。壁に貼られたままになっている卒業生へのメッセージ……。半年以上たった今でも、津波の爪跡は大きく残されていました。

校庭には津波でつぶされた車がたくさん積まれていました。この3校はすべて廃校になるそうです。

こちらは今までに体験した事のない大きな地震でした。

私は自宅にいましたが、食器棚の扉が開いたり閉じたりするくらい大きく揺れて、棚が倒れるのではないかと、とても怖かったことを覚えています。

帰宅の足もなくその日は帰れなかった人もいたでしょう。電話も通じず、不安な思いをされたのではないのでしょうか。

地震の後も、計画停電あたりは真っ暗になり、スーパーでは乾電池や水などが手に入らなくなったりもしました。

携帯電話やテレビから警報が鳴るたびにドキドキし、揺れてもいないのに地震がおきているような錯覚を感じた人も多かったはずですよ。

今、あの地震を思い返した時、何を感じるのでしょうか。

私にとってはすっかり‘過去の事’になっていました。皆さんにとってはどうですか。

もしここに大地震がおきたら……。避難場所は家族みんながわかっていますか？家族との連絡方法や集合場所など、話し合っていますか？防災グッズは揃っていますか？

家族で考え、準備しておかなければいけない事はたくさんあります。

今回の石巻訪問で被災地の現状を目の当たりにし、いつ起きるか分からない自然災害の猛威を、決して他人事と思っはいけないのだと強く感じました。

阪神・淡路大震災からもうすぐ17年……。今では被災地という人はいません。それは見事に復興を果たすことができたからです。

今回被害を受けた地域が被災地と言わないくらい復興するまで、私達はどんなエールを送っていけるのでしょうか。今まだ辛い状況の中、復興に向け頑張っている人たちに何ができるか……。一番大切なことは離れた所に住む私達がこの災害を過去の事にせず、決して忘れない事だと思います。

今回、石巻市で撮ってきた写真を後日展示したいと思います。お子さんと一緒に見て、震災について話し合う機会にさせていただいたら幸いです。